

第4 調査の結果

第4 調査の結果

【I】貴所・園の概要についておうかがいします

表1 児童施設の概要

項目		施設数	割合	
A.所在地	特別区	1353	64.8	
	市部・郡部	665	31.8	
	島部	6	0.3	
	無回答	65	3.1	
	総計	2089	100.0	
B.開所（園）時間	開所時間	6～7時	7	0.3
		7～8	1422	68.1
		8～9	278	13.3
		9～10	302	14.5
		10時以降	5	0.2
		(無回答)	75	3.6
		総計	2089	100.0
	閉所時間	13～14時	46	2.2
		14～15	339	16.2
		15～16	27	1.3
		16～17	29	1.4
		17～18	84	4.0
		18～19	294	14.1
		19～20	727	34.8
		20～21	338	16.2
		21～22	65	3.1
		22～23	50	2.4
		23時以降	2	0.1
		(無回答)	88	4.2
総計	2089	100.0		
C.種類・運営形態	ア.認可保育所	1143	54.7	
	イ.認証保育所	258	12.4	
	ウ.幼稚園	617	29.5	
	無回答	71	3.4	
	総計	2089	100.0	
ア.認可保育所運営形態	1.公立	605	52.9	
	2.私立	528	46.2	
	無回答	10	0.9	
	総計	1143	100.0	
イ.認証保育所運営形態	1.A	189	73.3	
	2.B	67	26.0	
	無回答	2	0.8	
	総計	258	100.0	
ウ.幼稚園運営形態	1.公立	135	21.9	
	2.私立	478	77.5	
	無回答	4	0.6	
	総計	617	100.0	

表 1 (児童施設の概要)続き

E 職員数	施設数	割合
10 人未満	224	10.7
10 人以上 20 人未満	585	28.0
20 人以上 30 人未満	554	26.5
30 人以上 40 人未満	436	20.9
40 人以上 50 人未満	154	7.4
50 人以上	47	2.2
無回答	89	4.3
総計	2089	100.0

【Ⅱ】貴所・園における、各アレルギー疾患を持つ乳幼児状況などについておうかがいします

表 2 (問 2) 貴所・園では、平成 21 年 4 月 1 日時点で、保護者からの申し出等によりアレルギー疾患を持つ乳幼児の実態を把握していますか。「(1)」では、各疾病ごとの把握の有無について、お答えいただき、把握している場合は「(2)」では各疾病ごとの人数をご記入ください。なお、複数の疾患を持つ乳幼児については、それぞれにご記入ください。

疾病名		1.把握していない	2.把握している	3.無回答	総計
A.ぜん息	人数	124	1775	190	2089
	割合	5.9	85.0	9.1	100.0
B.アトピー性皮膚炎	人数	122	1783	184	2089
	割合	5.8	85.4	8.8	100.0
C.食物アレルギー	人数	43	1959	87	2089
	割合	2.1	93.8	4.2	100.0
D.アナフィラキシー	人数	439	1347	303	2089
	割合	21.0	64.5	14.5	100.0
E.アレルギー性鼻炎	人数	567	1203	319	2089
	割合	27.1	57.6	15.3	100.0
F.アレルギー性結膜炎	人数	604	1115	370	2089
	割合	28.9	53.4	17.7	100.0

表3 (問3) アレルギー疾患を持つ乳幼児の把握方法について、あてはまるものは、どれですか。
 問3-1については、「入所調査票や面談などの保護者の申し出により把握している」場合、各疾病ごとに1~6
 までの該当する項目をすべて選んでください。また問3-2については、「医師の診断書や指示書の提出を求め
 ている」場合、各疾病ごとに1~6までの該当する項目についていくつでも選んでください。(いくつでも○)

疾病名	問3-1 入所調査票や面談などにより把握している		問3-2 医師の診断書や指示書の提出を求めている	
	施設数	割合	施設数	割合
1.ぜん息	1789	85.6	204	9.8
2.アトピー性皮膚炎	1776	85.0	352	16.9
3.食物アレルギー	1814	86.8	1354	64.8
4.アナフィラキシー	1362	65.2	623	29.8
5.アレルギー性鼻炎	1312	62.8	79	3.8
6.アレルギー性結膜炎	1185	56.7	101	4.8
無回答	126	6.0	671	32.1
総計	2089	100.0	2089	100.0

【Ⅲ】貴所・園において、平成21年4月1日から現在（本調査票記入時）までの間における、各アレルギー疾患の乳幼児への配慮や管理状況などについておうかがいします

表4 （問4）何らかの配慮や管理を必要とするぜん息を持つ乳幼児がいますか。（1つだけ○）

ぜん息をもつ乳幼児の有無	施設数	割合
1.いる	898	43.0
2.いない	1141	54.6
無回答	50	2.4
総計	2089	100.0

表5 （問4-1）問4で「1.いる」と答えた方に、ぜん息を持つ乳幼児への配慮などについてあてはまるものをすべて選んでください。（いくつでも○）

質問	回答	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について			
1.毛や羽のある動物（ハムスター、鳥など）に接触しないよう配慮している	している	441	49.1
	総計	898	100.0
2.運動遊びや水遊び、お散歩などは、体調を十分に観察し、状況によって制限している	している	517	57.6
	総計	898	100.0
3.ほこりが舞う環境から避けるよう配慮している（掃除の時は別室に行かせる、窓を全開にするなど）	している	408	45.4
	総計	898	100.0
4.ぜん息を持つ幼児本人に対して、発作を予防するために急に走らない、運動時の見学などの話をしている	している	193	21.5
	総計	898	100.0
5.施設の敷地内は全面禁煙にしている	している	607	67.6
	総計	898	100.0
服薬管理について			
6.保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された長期管理薬（症状がなくても毎日使用する薬）を預かることや、内服をさせる場合がある	している	335	37.3
	総計	898	100.0
7.保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された発作治療薬（発作が起きたときだけ使用する薬）を預かることや、内服をさせる場合がある	している	343	38.2
	総計	898	100.0

表5 (問4-1) 続き

質問	回答	施設数	割合
ぜん息発作及び重症化防止の対策について			
8.入所・入園時に、児童票などで、ぜん息に関する必要な情報を把握している（これまでの経過や症状、かかりつけ医、処方薬、発作時の対応や緊急連絡先、搬送できる病院等について）	している	705	78.5
	総計	898	100.0
9.日頃から、連絡票などで、本人の体調について保護者と連絡をとりあっている	している	629	70.0
	総計	898	100.0
10.ぜん息を持つ乳幼児の情報（発作を誘発しやすい運動、発作時の対応、日頃の体調）を職員間で情報共有している	している	589	65.6
	総計	898	100.0
11.職員全員に対して、ぜん息に関する基礎知識の充実を図っている（研修への参加、勉強会の開催など）	している	248	27.6
	総計	898	100.0
12.ぜん息発作時にとる対応の事前確認（必要に応じて訓練の実施）を行っている	している	197	21.9
	総計	898	100.0

表6 問4-1のぜん息を持つ乳幼児への配慮などについていずれの項目も選択されていなかった施設数

項目	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について	95	10.6
服薬管理について	394	43.9
ぜん息発作及び重症化防止の対策について	75	8.4
総計	898	100.0

表7 (問5) 何らかの配慮や管理を必要とするアトピー性皮膚炎をもつ乳幼児がいますか。(1つだけ○)

アトピー性皮膚炎をもつ乳幼児の有無	施設数	割合
1.いる	1353	64.8
2.いない	666	31.9
無回答	70	3.4
総計	2089	100.0

表8 (問5-1) 問5で「1.いる」と答えた方に、アトピー性皮膚炎をもつ乳幼児への配慮などについてあてはまるものをすべて選んでください。(いくつでも○)

質問	回答	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について			
1.毛や羽のある動物（ハムスター、鳥など）に接触しないよう配慮している	している	532	39.3
	総計	1353	100.0
2.遊びや散歩、プールの際、長時間紫外線に浴びさせない（日焼け止めクリームの塗布、日陰を歩く、日よけ用帽子や衣服の着用など）よう配慮している	している	747	55.2
	総計	1353	100.0
3.汗をかいた後は、汗を拭きとっている	している	915	67.6
	総計	1353	100.0
4.汗をかいた後は、シャワー浴を実施している	している	674	49.8
	総計	1353	100.0
5.プールの後には、皮膚に付着した塩素を落とすためにシャワー浴を実施している	している	1012	74.8
	総計	1353	100.0
服薬管理について			
6.保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された外用薬を預かることや、塗布を行う場合がある	している	1155	85.4
	総計	1353	100.0
7.保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された内服薬を預かることや、内服をさせる場合がある	している	518	38.3
	総計	1353	100.0

表9 問5-1 アトピー性皮膚炎をもつ乳幼児への配慮などについていずれの項目も選択されていなかった施設数

項目	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について	86	6.4
服薬管理について	180	13.3
総計	1353	100.0

表 10 (問6) 何らかの配慮や管理を必要とするアレルギー性鼻炎・結膜炎をもつ乳幼児がいますか。(1つだけ○)

アレルギー性鼻炎・結膜炎をもつ乳幼児の有無	施設数	割合
1.いる	598	28.6
2.いない	1386	66.3
無回答	105	5.0
総計	2089	100.0

表 11 (問6-1) 問6で「1.いる」と答えた方に、アレルギー性鼻炎・結膜炎をもつ乳幼児への配慮などについてあてはまるものをすべて選んでください。(いくつでも○)

質問	回答	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について			
1.毛や羽のある動物(ハムスター、鳥など)に接触しないよう配慮している	している	233	39.0
	総計	598	100.0
2.特に花粉の飛散時期やホコリの多い日等の屋外活動(遊びや、お散歩、運動会等)への参加の際、体調を十分に観察し、状況によって制限している	している	297	49.7
	総計	598	100.0
服薬管理について			
3.保護者からの依頼(与薬依頼票など)により、主治医の投薬指示書に基づき処方された点眼薬・点鼻薬を預かることや、点眼・点鼻を行う場合がある	している	397	66.4
	総計	598	100.0
4.保護者からの依頼(与薬依頼票など)により、主治医の投薬指示書に基づき処方された内服薬を預かることや、内服をさせる場合がある	している	228	38.1
	総計	598	100.0

表 12 問6-1アレルギー性鼻炎・結膜炎をもつ乳幼児への配慮などについていずれの項目も選択されていなかった施設数

項目	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について	224	37.5
服薬管理について	178	29.8
総計	598	100.0

表 13 (問7) 何らかの配慮や管理を必要とする食物アレルギー、またはアナフィラキシーの既往(過去にアナフィラキシーを起したことがある)をもつ乳幼児がいますか。(1つだけ○)

食物アレルギー、またはアナフィラキシーの既往をもつ乳幼児の有無	施設数	割合
1.いる	1388	66.4
2.いない	649	31.1
無回答	52	2.5
総計	2089	100.0

表 14 (問7-1) 問7で「1.いる」と答えた方に、食物アレルギー、またはアナフィラキシーの既往をもつ乳幼児への配慮などについてあてはまるものをすべて選んでください。(いくつでも○)

質問	回答	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について			
1. 給食やおやつ時間は、誤食防止(他の幼児の食事を食べない)のために職員が同じテーブルにつくなどの配慮をしている	している	1163	83.8
	総計	1388	100.0
2. 牛乳パックリサイクル体験や豆まきなどの活動を実施する際は、原因となる食材に触れたり吸い込まないよう配慮している	している	653	47.0
	総計	1388	100.0
3. 食物アレルギーを持つ幼児本人に対して、アナフィラキシー予防のために、誤食防止などの話をしている	している	720	51.9
	総計	1388	100.0
アレルギー対応食の提供状況について			
4. 給食やおやつ原材料を詳細に記入した献立表を事前に配布している	している	1130	81.4
	総計	1388	100.0
5. 除去が困難なメニューの場合に一部または全面に弁当を持参してもらっている	している	493	35.5
	総計	1388	100.0
6. 原因となる食材を除いた給食(除去食用)の専用調理設備で作った除去食を提供している	している	599	43.2
	総計	1388	100.0
7. 原因となる食材を給食から除き、そのことによって失われる栄養価の食材を補って提供する給食(代替食用)の専用調理設備で作った代替食を提供している	している	613	44.2
	総計	1388	100.0
アナフィラキシー発症時の服薬管理について			
8. 保護者からの依頼(与薬依頼票など)により、主治医の投薬指示書に基づき処方された薬を預かることや、内服をさせる場合がある。	している	479	34.5
	総計	1388	100.0
9. 保護者からの依頼により、主治医から処方されたアドレナリン自己注射薬を預かっている	している	15	1.1
※(アドレナリン自己注射薬を処方されている幼児の数 ⇒ (名)	総計	1388	100.0

表 14 (問 7-1) 続き

質問	回答	施設数	割合
アナフィラキシーの発症及び重症化防止の対策について			
10. 入所・入園時に、児童票などで、食物アレルギーやアナフィラキシーに関する必要な情報を把握している（これまでの経過や症状、かかりつけ医、処方薬、アナフィラキシー時の対応や緊急連絡先、搬送できる病院等について）	している	1037	74.7
	総計	1388	100.0
11. 日頃から、連絡票などで、本人の体調について保護者と連絡をとりあっている	している	910	65.6
	総計	1388	100.0
12. 食物アレルギーの乳幼児やアナフィラキシーの既往がある乳幼児の情報（日々の体調など）を職員間で情報共有している	している	998	71.9
	総計	1388	100.0
13. 職員全員に対して、食物アレルギーやアナフィラキシーに関する基礎知識の充実に図っている（研修への参加、勉強会の開催など）	している	698	50.3
	総計	1388	100.0
14. アナフィラキシー発症時にとる対応の事前確認（必要に応じて訓練の実施）を行っている	している	430	31.0
	総計	1388	100.0
15. アドレナリン自己注射を職員が注射できるように研修を行っている	している	20	1.4
	総計	1388	100.0

表 15 問 7-1 食物アレルギー、またはアナフィラキシーの既往を持つ乳幼児への配慮などについていずれの項目も選択されていなかった施設数

項目	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について	124	8.9
アレルギー対応食の提供状況について	103	7.4
アナフィラキシー発症時の服薬管理について	903	65.1
アナフィラキシーの発症及び重症化防止の対策について	262	18.9
総計	1388	100.0

表 16 問 7-1 で「9.保護者からの依頼により主治医から処方されたアドレナリン自己注射薬を預かっている」と回答した施設の、アドレナリン自己注射薬を処方されている幼児の数

アドレナリン自己注射を処方されている幼児の数	施設数	割合
0人	1	6.7
1人	6	40.0
2人	1	6.7
無回答	7	46.7
総計	15	100.0

【Ⅳ】貴所・園における給食・おやつ等の提供状況についておうかがいします

表 17 (問 8) 貴所・園では、給食やおやつを提供していますか。(1つだけ○)

給食やおよつ提供	施設数	割合
1. 提供している	1831	87.6
2. 提供していない	189	9.0
無回答	69	3.3
総計	2089	100.0

表 18 (問 8-1) 問 8 で「1.提供している」と答えた方に、給食を提供している場合、その調理の方式についてあてはまるものを1つだけ選んでください。(1つだけ○)

給食提供時の調理方式について	施設数	割合
1. 所・園に給食調理施設がある自所・園単独方式	1442	78.8
2. 共同調理場で調理した給食を、所・園内で配膳して提供するセンター方式	18	1.0
3. 民間業者が弁当をつくって、所・園に届ける弁当方式	251	13.7
4. その他	87	4.8
無回答	33	1.8
総計	1831	100.0

【Ⅴ】貴所・園において、過去のぜん息発作やアナフィラキシー発症時対応などについておうかがいします

表 19 (問 9) 貴所・園では、過去 1 年間にぜん息発作を起こした乳幼児がいましたか。(1つだけ○)

ぜん息発作を起こした乳幼児の有無	施設数	割合
1. いる	469	22.5
2. いない	1531	73.3
無回答	89	4.3
総計	2089	100.0

表 20 (問 9-1) 問 9 で「1.いる」と答えた方に、ぜん息発作を発症した乳幼児の事例の中で、最も重症であった状態に近いと思われるものを1つだけ選んでください。(1つだけ○)

ぜん息発作の最も重症の事例	施設数	割合
1. 小発作 呼吸の音は軽くゼーゼーヒューヒューしていた 呼吸は苦しそうであったが、横になることはできた 食事はほぼ普通に食べられた	302	64.4
2. 中発作 呼吸の音が明らかにゼーゼーヒューヒューしていた 呼吸が苦しそうで、座った状態を好んだ(横になることを嫌がる) 食事はやや食べにくそうで、お昼寝時は時々目を覚ましていた	147	31.3
3. 大発作 呼吸の音が著明にゼーゼーヒューヒューしていた 呼吸はとても苦しそうで、横になれず、前かがみになりがちであった 食事は食べられず、お昼寝もできなかった	13	2.8
無回答	7	1.5
総計	469	100.0

表 21 (問9-2) 問9で「1.いる」と答えた方に、その事例では、貴所・園の職員はどのように対応しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。(いくつでも○)

給食提供時の調理方式について	施設数	割合
1. 椅子に座って休むなど楽な姿勢をとらせ、水をのませた	411	87.6
2. 持参薬（発作治療薬）を吸入させた、または内服させた	31	6.6
3. 保護者へ連絡した	432	92.1
4. かかりつけ医や園医に連絡をして指示を受けた	25	5.3
5. 職員が車で医療機関に受診させた	11	2.3
6. 救急車を呼んだ	2	0.4
7. その他	24	5.1
総計	469	100.0

表 22 (問 10) 貴所・園における、ぜん息発作を起した際の対応に係るマニュアルの活用状況について、あてはまるものを1つだけ選んでください。(1つだけ○)

ぜん息発作の際のマニュアルの活用状況	施設数	割合
1. 所・園で作成したものを活用している	344	16.5
2. 区市町村等で作成したものを活用している	424	20.3
3. 検討中（作成予定も含む）	696	33.3
4. 作成、検討の予定はない	302	14.5
無回答	323	15.5
総計	2089	100.0

表 23 (問 11) 貴所・園では、過去 3 年間に食物アレルギーをもつ乳幼児が誤食(原因食物を誤って食べるなど)してアナフィラキシー症状を起こした乳幼児がいましたか。(1つだけ○)

アナフィラキシー症状を起こした乳幼児の有無	施設数	割合
1. いる	243	11.6
2. いない	1735	83.1
無回答	111	5.3
総計	2089	100.0

表 24 (問 11-1) 問 11 で「1.いる」と答えた方に、アナフィラキシーを発症した乳幼児の事例の中で、最も重症であった状態に近いと思われるものを1つだけ選んでください。(1つだけ○)

アナフィラキシーを発症した事例で最も重症であったもの	施設数	割合
1. 部分的なじんましんがでていた 軽い腹痛があった 軽く唇や目がはれていた	139	57.2
2. 時々咳がでていた 全身にじんましんが広がっていた 腹痛あり、嘔吐や下痢が1～2回あった 唇や目や顔全体がはれてきた	74	30.5
3. 咳き込み、呼吸の音がゼーゼーヒューヒュー、呼吸が苦しそうであった 繰り返しの嘔吐や下痢となった ぐったりし、意識がうすれていた	27	11.1
無回答	3	1.2
総計	243	100.0

表 25 (問 11-2) 問 11 で「1.いる」と答えた方に、その事例では、貴所・園の職員はどのように対応しましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

アナフィラキシー発症時の職員の対応	施設数	割合
1. 安静にさせ、経過観察を行った	151	62.1
2. 対応できる職員を集めた	69	28.4
3. 保護者へ連絡した	217	89.3
4. かかりつけ医や園医に連絡をして指示を受けた	49	20.2
5. 職員が医療機関に受診させた	63	25.9
6. ステロイド内服薬等を内服させた	26	10.7
7. 人命救助の観点から職員がアドレナリン自己注射薬を使用した	1	0.4
8. 救急車を呼んだ	13	5.3
9. その他	9	3.7
総計	243	100.0

表 26 (問 12) 貴所・園における、アナフィラキシーを発症した際の対応に係るマニュアルの活用状況について、あてはまるものを1つだけ選んでください。(1つだけ○)

アナフィラキシーを発症した際の対応に係るマニュアルの活用状況	施設数	割合
1. 所・園で作成したものを活用している	457	21.9
2. 区市町村等で作成したものを活用している	445	21.3
3. 検討中(作成予定も含む)	601	28.8
4. 作成、検討の予定はない	261	12.5
無回答	325	15.6
総計	2089	100.0

【VI】アレルギー疾患に関する研修の参加についておうかがいします

表 27 (問 13) 貴所・園では、過去3年間にアレルギー疾患について、職員の知識向上のための研修に参加されていますか。(1つだけ○)

アレルギー疾患の職員研修の参加有無	施設数	割合
1. 参加している	1367	65.4
2. 参加していない	698	33.4
無回答	24	1.1
総計	2089	100.0

表 28 (問 13-1) 問 13 で「1.参加している」と答えた方に、研修の主催者とテーマについて、あてはまるものはどれですか。「A」～「C」の各主催について、参加されたことのあるものテーマをすべて選んでください。(いくつでも○)

主催者	研修テーマ	施設数	割合
A 東京都主催	1. ぜん息	461	33.7
	2. アトピー性皮膚炎	438	32.0
	3. 食物アレルギー	776	56.8
	4. アレルギー性鼻炎	154	11.3
	5. アレルギー性結膜炎	119	8.7
	総計	1367	100.0
B 区市町村主催	1. ぜん息	227	16.6
	2. アトピー性皮膚炎	281	20.6
	3. 食物アレルギー	669	48.9
	4. アレルギー性鼻炎	81	5.9
	5. アレルギー性結膜炎	59	4.3
	総計	1367	100.0
C 民間主催	1. ぜん息	171	12.5
	2. アトピー性皮膚炎	196	14.3
	3. 食物アレルギー	397	29.0
	4. アレルギー性鼻炎	54	4.0
	5. アレルギー性結膜炎	47	3.4
	総計	1367	100.0

表 29 施設種類別の開始時間と閉所時間の分布

問 1 時間	ア. 認可保育所		イ. 認証保育所		ウ. 幼稚園		総計		
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	
開所時間									
6～7時	3	0.3	3	1.2	1	0.2	7	0.3	
7～8	1123	98.9	249	96.5	39	6.4	1411	70.5	
8～9	6	0.5	6	2.3	265	43.7	277	13.8	
9～10	4	0.4	—	—	297	48.9	301	15.0	
10時以降	—	—	—	—	5	0.8	5	0.2	
総計	1136	100.0	258	100.0	607	100.0	2001	100.0	
閉所時間									
13～14時	—	—	—	—	46	7.7	46	2.3	
14～15	4	0.4	—	—	334	56.0	338	17.0	
15～16	2	0.2	1	0.4	23	3.9	26	1.3	
16～17	1	0.1	—	—	28	4.7	29	1.5	
17～18	3	0.3	1	0.4	80	13.4	84	4.2	
18～19	225	19.8	1	0.4	67	11.2	293	14.7	
19～20	706	62.3	3	1.2	13	2.2	722	36.3	
20～21	164	14.5	168	65.1	3	0.5	335	16.9	
21～22	5	0.4	58	22.5	2	0.3	65	3.3	
22～23	23	2.0	25	9.7	—	—	48	2.4	
23時以降	1	0.1	1	0.4	—	—	2	0.1	
総計	1134	100.0	258	100.0	596	100.0	1988	100.0	

表 30 アレルギー疾患を持つ乳幼児の施設種類別の把握状況

把握している疾病	施設の種類		1.把握していない	2.把握している	総計
A ぜん息	ア.認可保育所	施設数	48	1025	1073
		割合	4.5	95.5	100.0
	イ.認証保育所	施設数	36	184	220
		割合	16.4	83.6	100.0
ウ.幼稚園	施設数	39	551	590	
	割合	6.6	93.4	100.0	
	総計	施設数	123	1760	1883
		割合	6.5	93.5	100.0
B アトピー性皮膚炎	ア.認可保育所	施設数	42	1030	1072
		割合	3.9	96.1	100.0
	イ.認証保育所	施設数	38	189	227
		割合	16.7	83.3	100.0
ウ.幼稚園	施設数	41	548	589	
	割合	7.0	93.0	100.0	
	総計	施設数	121	1767	1888
		割合	6.4	93.6	100.0
C 食物アレルギー	ア.認可保育所	施設数	5	1126	1131
		割合	0.4	99.6	100.0
	イ.認証保育所	施設数	14	239	253
		割合	5.5	94.5	100.0
ウ.幼稚園	施設数	24	576	600	
	割合	4.0	96.0	100.0	
	総計	施設数	43	1941	1984
		割合	2.2	97.8	100.0

表 30 (アレルギー疾患を持つ乳幼児の施設種類別の把握状況) 続き

			1.把握していない	2.把握している	総計	
D アナフィラキシー	ア. 認可保育所	施設数	185	832	1017	
		割合	18.2	81.8	100.0	
	イ. 認証保育所	施設数	63	150	213	
		割合	29.6	70.4	100.0	
	ウ. 幼稚園	施設数	190	351	541	
		割合	35.1	64.9	100.0	
	総計		施設数	438	1333	1771
			割合	24.7	75.3	100.0
	E アレルギー性鼻炎	ア. 認可保育所	施設数	314	669	983
			割合	31.9	68.1	100.0
		イ. 認証保育所	施設数	86	129	215
			割合	40.0	60.0	100.0
ウ. 幼稚園		施設数	162	395	557	
		割合	29.1	70.9	100.0	
総計		施設数	562	1193	1755	
		割合	32.0	68.0	100.0	
F アレルギー性結膜炎		ア. 認可保育所	施設数	301	670	971
			割合	31.0	69.0	100.0
		イ. 認証保育所	施設数	90	122	212
			割合	42.5	57.5	100.0
	ウ. 幼稚園	施設数	209	313	522	
		割合	40.0	60.0	100.0	
	総計		施設数	600	1105	1705
			割合	35.2	64.8	100.0

表 31 アレルギー疾患を持つ乳幼児の施設種類別の把握状況

問 3 把握する疾病	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
入所調査票や面談により把握している								
1.ぜん息	1032	90.3	198	76.7	543	88.0	1773	87.9
2.アトピー性皮膚炎	1027	89.9	195	75.6	536	86.9	1758	87.1
3.食物アレルギー	1023	89.5	219	84.9	554	89.8	1796	89.0
4.アナフィラキシー	850	74.4	159	61.6	340	55.1	1349	66.8
5.アレルギー性鼻炎	758	66.3	151	58.5	391	63.4	1300	64.4
6.アレルギー性結膜炎	717	62.7	142	55.0	316	51.2	1175	58.2
無回答	25	2.2	12	4.7	38	6.2	75	3.7
総計	1143	100.0	258	100.0	617	100.0	2018	100.0
医師の診断書や指示書の提出を求めている								
1.ぜん息	131	11.5	49	19.0	23	3.7	203	10.1
2.アトピー性皮膚炎	268	23.4	59	22.9	21	3.4	348	17.2
3.食物アレルギー	1063	93.0	212	82.2	65	10.5	1340	66.4
4.アナフィラキシー	463	40.5	91	35.3	60	9.7	614	30.4
5.アレルギー性鼻炎	46	4.0	23	8.9	9	1.5	78	3.9
6.アレルギー性結膜炎	64	5.6	25	9.7	9	1.5	98	4.9
無回答	62	5.4	40	15.5	513	83.1	615	30.5
総計	1143	100.0	258	100.0	617	100.0	2018	100.0

表 32 ぜん息を持つ乳幼児の施設種類別の在籍状況

問 4 ぜん息を持つ乳幼児の有無	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. いる	546	48.8	43	17.2	279	46.7	868	44.1
2. いない	574	51.3	207	82.8	319	53.3	1100	55.9
総計	1120	100.0	250	100.0	598	100.0	1968	100.0

表 33 ぜん息を持つ乳幼児に対する施設種類別の配慮の状況

問 4-1 配慮	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について								
1. 毛や羽のある動物（ハムスター、鳥など）に接触しないよう配慮している	277	50.7	16	37.2	136	48.7	429	49.4
2. 運動遊びや水遊び、お散歩などは、体調を十分に観察し、状況によって制限している	355	65.0	31	72.1	115	41.2	501	57.7
3. ほこりが舞う環境から避けるよう配慮している（掃除の時は別室に行かせる、窓を全開にするなど）	270	49.5	21	48.8	108	38.7	399	46.0
4. ぜん息を持つ幼児本人に対して、発作を予防するために急に走らない、運動時の見学などの話をしている	130	23.8	9	20.9	49	17.6	188	21.7
5. 施設の敷地内は全面禁煙にしている	394	72.2	32	74.4	160	57.3	586	67.5
服薬管理について								
6. 保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された長期管理薬（症状がなくても毎日使用する薬）を預かることや、内服をさせる場合がある	234	42.9	20	46.5	68	24.4	322	37.1
7. 保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された発作治療薬（発作が起きたときだけ使用する薬）を預かることや、内服をさせる場合がある	207	37.9	16	37.2	110	39.4	333	38.4
ぜん息発作および重症化防止の対策について								
8. 入所・入園時に、児童票などで、ぜん息に関する必要な情報を把握している（これまでの経過や症状、かかりつけ医、処方薬、発作時の対応や緊急連絡先、搬送できる病院等について）	459	84.1	34	79.1	192	68.8	685	78.9
9. 日頃から、連絡票などで、本人の体調について保護者と連絡をとりあっている	425	77.8	37	86.0	149	53.4	611	70.4
10. ぜん息を持つ乳幼児の情報（発作を誘発しやすい運動、発作時の対応、日頃の体調）を職員間で情報共有している	381	69.8	29	67.4	164	58.8	574	66.1
11. 職員全員に対して、ぜん息に関する基礎知識の充実を図っている（研修への参加、勉強会の開催など）	190	34.8	15	34.9	34	12.2	239	27.5
12. ぜん息発作時にとる対応の事前確認（必要に応じて訓練の実施）を行っている	138	25.3	11	25.6	42	15.1	191	22.0
総計	546	100.0	43	100.0	279	100.0	868	100.0

表 34 ぜん息を持つ乳幼児の施設種類別の配慮の状況でいずれの項目も選択されていないもの

問 9-1 いずれの項目も 選択されていないもの	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	日常生活や行事での配慮について	54	9.9	5	11.6	31	11.1	90
服薬管理について	219	40.1	13	30.2	149	53.4	381	43.9
ぜん息発作および重症化防止の対策について	30	5.5	4	9.3	35	12.5	69	7.9
総計	546	100.0	43	100.0	279	100.0	868	100.0

表 35 アトピー性皮膚炎を持つ乳幼児の施設種類別の在籍状況

問 5 アトピー性皮膚炎を持つ 乳幼児の有無	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	1. いる	866	77.7	95	38.2	343	58.7	1304
2. いない	249	22.3	154	61.8	241	41.3	644	33.1
総計	1115	100.0	249	100.0	584	100.0	1948	100.0

表 36 アトピー性皮膚炎を持つ乳幼児に対する施設種類別の配慮の状況

問 9-1 配慮	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	日常生活や行事での配慮について							
1. 毛や羽のある動物（ハムスター、鳥など）に接触しないよう配慮している	341	39.4	35	36.8	134	39.1	510	39.1
2. 遊びや散歩、プールの際、長時間紫外線に浴びさせない（日焼け止めクリーム塗布、日陰を歩く、日よけ帽子や衣服の着用など）よう配慮している	511	59.0	63	66.3	148	43.1	722	55.4
3. 汗をかいた後は、汗を拭きとっている	609	70.3	76	80.0	194	56.6	879	67.4
4. 汗をかいた後は、シャワー浴を実施している	563	65.0	52	54.7	30	8.7	645	49.5
5. プールの後には、皮膚に付着した塩素を落とすためにシャワー浴を実施している	724	83.6	57	60.0	201	58.6	982	75.3
服薬管理について								
6. 保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された外用薬を預かることや、塗布を行う場合がある	796	91.9	85	89.5	228	66.5	1109	85.0
7. 保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された内服薬を預かることや、内服をさせる場合がある	349	40.3	51	53.7	98	28.6	498	38.2
総計	866	100.0	95	100.0	343	100.0	1304	100.0

表 37 アトピー性皮膚炎を持つ乳幼児の在籍する施設種類別の配慮の状況でいずれの項目も選択されていないもの

問 9-1 いずれの項目も 選択されていないもの	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	日常生活や行事での配慮について	43	5.0	7	7.4	32	9.3	82
服薬管理について	61	7.0	9	9.5	107	31.2	177	13.6
総計	866	100.0	95	100.0	343	100.0	1304	100.0

表 38 アレルギー性鼻炎・結膜炎を持つ乳幼児の施設種類別の在籍状況

問 6 アレルギー性鼻炎・結膜炎を持つ 乳幼児の有無	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	1. いる	374	34.6	32	12.9	178	30.4	584
2. いない	707	65.4	216	87.1	408	69.6	1331	69.5
総計	1081	100.0	248	100.0	586	100.0	1915	100.0

表 39 アレルギー性鼻炎・結膜炎を持つ乳幼児に対する施設種類別の配慮の状況

問 8-1 配慮	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	日常生活や行事での配慮について							
1. 毛や羽のある動物（ハムスター、鳥など）に接触しないよう配慮している	136	36.4	12	37.5	78	43.8	226	38.7
2. 特に花粉の飛散時期やホコリの多い日等の屋外活動（遊びや、お散歩、運動会等）への参加の際、体調を十分に観察し、状況によって制限している	206	55.1	17	53.1	70	39.3	293	50.2
服薬管理								
3. 保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された点眼薬・点鼻薬を預かることや、点眼・点鼻を行う場合がある	284	75.9	27	84.4	75	42.1	386	66.1
4. 保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された内服薬を預かることや、内服をさせる場合がある	148	39.6	20	62.5	57	32.0	225	38.5
総計	374	100.0	32	100.0	178	100.0	584	100.0

表 40 アレルギー性鼻炎・結膜炎を持つ乳幼児に対する配慮についていずれの項目も選択されていないもの

問 8-1 いずれの項目も 選択されていないもの	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	日常生活や行事での配慮について	135	36.1	12	37.5	71	39.9	218
服薬管理について	78	20.9	1	3.1	96	53.9	175	30.0
総計	374	100.0	32	100.0	178	100.0	584	100.0

表 41 食物アレルギーまたはアナフィラキシーの既往を持つ乳幼児の施設種類別の在籍状況

問 7 食物アレルギーまたは アナフィラキシーの既往を もつ乳幼児の有無	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	1. いる	837	74.6	160	64.0	342	57.6	1339
2. いない	285	25.4	90	36.0	252	42.4	627	31.9
総計	1122	100.0	250	100.0	594	100.0	1966	100.0

表 42 食物アレルギーまたはアナフィラキシーの既往を持つ乳幼児に対する施設種類別の配慮の状況

問 7-1 配慮	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
日常生活や行事での配慮について								
1. 給食やおやつの時間は、誤食防止（他の幼児の食事を食べない）のために職員が同じテーブルにつくなどの配慮をしている	787	94.0	150	93.8	184	53.8	1121	83.7
2. 牛乳パックリサイクル体験や豆まきなどの活動を実施する際は、原因となる食材に触れたり吸い込まないように配慮している	448	53.5	70	43.8	113	33.0	631	47.1
3. 食物アレルギーを持つ幼児本人に対して、アナフィラキシー予防のために、誤食防止などの話をしている	486	58.1	67	41.9	144	42.1	697	52.1
アレルギー対応食の提供状況について								
4. 給食やおやつの原材料を詳細に記入した献立表を事前に配布している	735	87.8	124	77.5	228	66.7	1087	81.2
5. 除去が困難なメニューの場合に一部または全面に弁当を持参してもらっている	237	28.3	35	21.9	204	59.6	476	35.5
6. 原因となる食材を除いた給食（除去食用）の専用調理設備で作った除去食を提供している	456	54.5	71	44.4	54	15.8	581	43.4
7. 原因となる食材を給食から除き、そのことによって失われる栄養価の食材を補って提供する給食（代替食用）の専用調理設備で作った代替食を提供している	489	58.4	71	44.4	32	9.4	592	44.2
アナフィラキシー発症時の服薬管理								
8. 保護者からの依頼（与薬依頼票など）により、主治医の投薬指示書に基づき処方された薬を預かることや、内服をさせる場合がある。	329	39.3	49	30.6	78	22.8	456	34.1
9. 保護者からの依頼により、主治医から処方されたアドレナリン自己注射薬を預かっている	11	1.3	1	0.6	3	0.9	15	1.1
総計	837	100.0	160	100.0	342	100.0	1339	100.0

表 42 (食物アレルギーまたはアナフィラキシーの既往を持つ乳幼児に対する配慮) 続き

問 7-1 配慮	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
アナフィラキシーの発症および重症化防止の対策について								
10. 入所・入園時に、児童票などで、食物アレルギーやアナフィラキシーに関する必要な情報を把握している（これまでの経過や症状、かかりつけ医、処方薬、アナフィラキシー時の対応や緊急連絡先、搬送できる病院等について）	690	82.4	105	65.6	208	60.8	1003	74.9
11. 日頃から、連絡票などで、本人の体調について保護者と連絡をとりあっている	632	75.5	106	66.3	139	40.6	877	65.5
12. 食物アレルギーの乳幼児やアナフィラキシーの既往がある乳幼児の情報（日々の体調など）を職員間で情報共有している	668	79.8	110	68.8	186	54.4	964	72.0
13. 職員全員に対して、食物アレルギーやアナフィラキシーに関する基礎知識の充実を図っている（研修への参加、勉強会の開催など）	523	62.5	84	52.5	69	20.2	676	50.5
14. アナフィラキシー発症時にとる対応の事前確認（必要に応じて訓練の実施）を行っている	328	39.2	33	20.6	54	15.8	415	31.0
15. アドレナリン自己注射を職員が注射できるように研修を行っている	14	1.7	1	0.6	5	1.5	20	1.5
総計	837	100.0	160	100.0	342	100.0	1339	100.0

表 43 食物アレルギーまたはアナフィラキシーの既往を持つ乳幼児に対する配慮についていずれの項目も選択されていないもの

問 7-1 いずれの項目も 選択されていないもの	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
日常生活や行事での 配慮について	29	3.5	5	3.1	86	25.1	120	9.0
アレルギー対応食の 提供状況について	28	3.3	12	7.5	61	17.8	101	7.5
アナフィラキシー発症時の 服薬管理について	503	60.1	111	69.4	263	76.9	877	65.5
アナフィラキシーの発症 及び重症化防止の対策について	2	0.2	2	1.3	2	0.6	6	0.4
総計	837	100.0	160	100.0	342	100.0	1339	100.0

表 44 給食やおやつの施設種類別の提供状況

問 8 給食やおやつの提供	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. 提供している	1120	99.6	249	100.0	409	69.2	1778	90.5
2. 提供していない	5	0.4	—	—	182	30.8	187	9.5
総計	1125	100.0	249	100.0	591	100.0	1965	100.0

表 45 給食提供時の調理方式の施設種類別の状況

問 8-1 給食提供時の 調理方式について	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. 所・園に給食調理施設がある 自所・園単独方式	1100	98.9	243	98.4	55	14.2	1398	80.1
2. 共同調理場で調理した給食を、所・園内 で配膳して提供するセンター方式	2	0.2	3	1.2	13	3.4	18	1.0
3. 民間業者が弁当をつくって、 所・園に届ける弁当方式	4	0.4	—	—	241	62.4	245	14.0
4. その他	6	0.5	1	0.4	77	19.9	84	4.8
総計	1112	100.0	247	100.0	386	100.0	1745	100.0

表 46 ぜん息発作を起こした乳幼児の施設種類別の在籍状況

問 9 ぜん息発作を起こした 乳幼児の有無	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	1. いる	374	33.8	27	10.9	53	9.0	454
2. いない	733	66.2	221	89.1	536	91.0	1490	76.6
総計	1107	100.0	248	100.0	589	100.0	1944	100.0

表 47 ぜん息発作の最も重症の事例の施設種類別の状況

問 9-1 ぜん息発作の 最も重症の事例	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	1.小発作 呼吸の音は軽く ゼーゼーヒューヒューしていた 呼吸は苦しそうであったが、 横になることはできた 食事はほぼ普通に食べられた	228	62.1	19	70.4	42	79.2	289
2.中発作 呼吸の音が明らかに ゼーゼーヒューヒューしていた 呼吸が苦しそうで、座った状態を好んだ (横になることを嫌がる) 食事はやや食べにくそうで、 お昼寝時は時々目を覚ましていた	127	34.6	8	29.6	10	18.9	145	32.4
3.大発作 呼吸の音が著明に ゼーゼーヒューヒューしていた 呼吸はとても苦しそうで、横になれず、 前かがみになりがちであった 食事は食べられず、お昼寝もできなかった	12	3.3	—	—	1	1.9	13	2.9
総計	367	100.0	27	100.0	53	100.0	447	100.0

表 48 ぜん息発作の最も重症の事例に対する施設種類別の対応状況

問 9-2 職員の対応	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. 椅子に座って休むなど 楽な姿勢をとらせ、水をのませた	336	89.8	20	74.1	41	77.4	397	87.4
2. 持参薬（発作治療薬）を 吸入させた、または内服させた	17	4.5	4	14.8	9	17.0	30	6.6
3. 保護者へ連絡した	347	92.8	24	88.9	47	88.7	418	92.1
4. かかりつけ医や園医に 連絡をして指示を受けた	21	5.6	1	3.7	3	5.7	25	5.5
5. 職員が車で医療機関に受診させた	8	2.1	1	3.7	2	3.8	11	2.4
6. 救急車を呼んだ	2	0.5	—	—	—	—	2	0.4
7. その他	20	5.3	—	—	4	7.5	24	5.3
総計	374	100.0	27	100.0	53	100.0	454	100.0

表 49 ぜん息発作の際の対応に係るマニュアルの施設種類別の活用状況

問 10 ぜん息発作の際の マニュアルの活用状況	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. 所・園で作成したものを活用している	246	24.8	45	21.5	45	8.7	336	19.6
2. 区市町村等で作成したものを活用している	271	27.3	36	17.2	107	20.7	414	24.1
3. 検討中（作成予定も含む）	360	36.3	104	49.8	207	40.0	671	39.1
4. 作成、検討の予定はない	114	11.5	24	11.5	159	30.7	297	17.3
総計	991	100.0	209	100.0	518	100.0	1718	100.0

表 50 アナフィラキシー症状を起こした乳幼児の施設種類別の在籍状況

問 11 アナフィラキシー症状を 起こした乳幼児の有無	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. いる	171	15.6	28	11.4	32	5.5	231	12.0
2. いない	927	84.4	217	88.6	547	94.5	1691	88.0
総計	1098	100.0	245	100.0	579	100.0	1922	100.0

表 51 アナフィラキシーを発症した最も重症の事例の施設種類別の状況

問 11-1 アナフィラキシーを発症した 事例で最も重症であったもの	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. 部分的なじんましんがでていた ・ 軽い腹痛があった ・ 軽く唇や目がはれていた	92	54.8	22	78.6	21	65.6	135	59.2
2. 時々咳がでていた ・ 全身にじんましんが広がっていた ・ 腹痛あり、嘔吐や下痢が1～2回あった ・ 唇や目や顔全体がはれてきた	56	33.3	4	14.3	7	21.9	67	29.4
3. 咳き込み、呼吸の音が ゼーゼーヒューヒュー、 呼吸が苦しそうであった ・ 繰り返しの嘔吐や下痢となった ・ ぐったりし、意識がうすれていた	20	11.9	2	7.1	4	12.5	26	11.4
総計	168	100.0	28	100.0	32	100.0	228	100.0

表 52 アナフィラキシーを発症した最も重症の事例に対する施設種類別の対応状況

問 11-2	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. 安静にさせ、経過観察を行った	115	67.3	19	67.9	10	31.3	144	62.3
2. 対応できる職員を集めた	57	33.3	8	28.6	—	—	65	28.1
3. 保護者へ連絡した	157	91.8	22	78.6	27	84.4	206	89.2
4. かかりつけ医や園医に 連絡をして指示を受けた	37	21.6	6	21.4	3	9.4	46	19.9
5. 職員が医療機関に受診させた	52	30.4	3	10.7	3	9.4	58	25.1
6. ステロイド内服薬等を内服させた	24	14.0	—	—	1	3.1	25	10.8
7. 人命救助の観点から職員が アドレナリン自己注射薬を使用した	1	0.6	—	—	—	—	1	0.4
8. 救急車を呼んだ	9	5.3	1	3.6	1	3.1	11	4.8
9. その他	6	3.5	1	3.6	2	6.3	9	3.9
総計	171	100.0	28	100.0	32	100.0	231	100.0

表 53 アナフィラキシーを発症した際の対応に係るマニュアルの施設種類別の活用状況

問 12 アナフィラキシーを 発症した際の対応に係る マニュアルの活用状況	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
	1. 所・園で作成したものを 活用している	337	33.9	62	29.1	43	8.4	442
2. 区市町村等で作成したものを 活用している	310	31.2	29	13.6	95	18.6	434	25.3
3. 検討中（作成予定も含む）	279	28.1	102	47.9	205	40.1	586	34.1
4. 作成、検討の予定はない	67	6.7	20	9.4	168	32.9	255	14.9
総計	993	100.0	213	100.0	511	100.0	1717	100.0

表 54 アレルギー疾患に関する研修の施設種類別の参加状況

問 13 研修の参加状況	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
1. 参加している	978	86.6	191	74.6	148	24.3	1317	66.0
2. 参加していない	151	13.4	65	25.4	462	75.7	678	34.0
総計	1129	100.0	256	100.0	610	100.0	1995	100.0

表 55 主催者別のアレルギー疾患に関する研修の施設種類別の参加状況

問 13-1 主催者別の 研修の参加状況	ア.認可保育所		イ.認証保育所		ウ.幼稚園		総計	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
A 東京都主催								
1. ぜん息	364	37.2	43	22.5	39	26.4	446	33.9
2. アトピー性皮膚炎	348	35.6	40	20.9	36	24.3	424	32.2
3. 食物アレルギー	595	60.8	85	44.5	70	47.3	750	56.9
4. アレルギー性鼻炎	125	12.8	13	6.8	13	8.8	151	11.5
5. アレルギー性結膜炎	92	9.4	13	6.8	11	7.4	116	8.8
総計	978	100.0	191	100.0	148	100.0	1317	100.0
B 区市町村主催								
1. ぜん息	177	18.1	25	13.1	20	13.5	222	16.9
2. アトピー性皮膚炎	223	22.8	28	14.7	18	12.2	269	20.4
3. 食物アレルギー	515	52.7	100	52.4	32	21.6	647	49.1
4. アレルギー性鼻炎	64	6.5	11	5.8	4	2.7	79	6.0
5. アレルギー性結膜炎	44	4.5	10	5.2	4	2.7	58	4.4
総計	978	100.0	191	100.0	148	100.0	1317	100.0
C 民間主催								
1. ぜん息	118	12.1	16	8.4	29	19.6	163	12.4
2. アトピー性皮膚炎	141	14.4	20	10.5	26	17.6	187	14.2
3. 食物アレルギー	277	28.3	58	30.4	43	29.1	378	28.7
4. アレルギー性鼻炎	43	4.4	5	2.6	3	2.0	51	3.9
5. アレルギー性結膜炎	36	3.7	6	3.1	3	2.0	45	3.4
総計	978	100.0	191	100.0	148	100.0	1317	100.0

表 56 各アレルギー疾患罹患状況（児童施設全体）

	全体児童数	A. ぜん息		B. アトピー性 皮膚炎		C. 食物アレルギー		D. アナフィラ キシー		E. アレルギー性 鼻炎		F. アレルギー性 結膜炎	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
問1D. 児童数（0歳男児）	5,198	135	2.6	236	4.5	482	9.3	27	0.5	21	0.4	11	0.2
問1D. 児童数（1歳男児）	9,744	324	3.3	461	4.7	1,178	12.1	99	1.0	70	0.7	27	0.3
問1D. 児童数（2歳男児）	11,625	557	4.8	587	5.0	951	8.2	97	0.8	108	0.9	62	0.5
問1D. 児童数（3歳男児）	24,529	1,276	5.2	1,054	4.3	1,444	5.9	128	0.5	395	1.6	137	0.6
問1D. 児童数（4歳男児）	28,773	1,682	5.8	1,304	4.5	1,454	5.1	123	0.4	663	2.3	264	0.9
問1D. 児童数（5歳男児）	29,735	2,049	6.9	1,319	4.4	1,340	4.5	126	0.4	660	2.2	302	1.0
問1D. 児童数（6歳男児）	1,962	142	7.2	108	5.5	92	4.7	7	0.4	52	2.7	20	1.0
問1D. 児童数（男児合計）	111,572	6,165	5.5	5,069	4.5	6,941	6.2	607	0.5	1,968	1.8	823	0.7
問1D. 児童数（0歳女児）	4,817	52	1.1	135	2.8	364	7.6	21	0.4	18	0.4	6	0.1
問1D. 児童数（1歳女児）	8,935	156	1.7	320	3.6	711	8.0	43	0.5	53	0.6	25	0.3
問1D. 児童数（2歳女児）	10,692	287	2.7	386	3.6	585	5.5	62	0.6	94	0.9	49	0.5
問1D. 児童数（3歳女児）	23,293	730	3.1	785	3.4	1,011	4.3	69	0.3	233	1.0	95	0.4
問1D. 児童数（4歳女児）	27,883	970	3.5	988	3.5	989	3.5	74	0.3	435	1.6	177	0.6
問1D. 児童数（5歳女児）	28,255	1,178	4.2	1,085	3.8	875	3.1	51	0.2	410	1.5	225	0.8
問1D. 児童数（6歳女児）	1,779	60	3.4	80	4.5	62	3.5	6	0.3	30	1.7	10	0.6
問1D. 児童数（女児合計）	105,654	3,433	3.2	3,779	3.6	4,597	4.4	326	0.3	1,276	1.2	587	0.6
児童数計	217,226	9,598	4.4	8,848	4.1	11,538	5.3	933	0.4	3,244	1.5	1,410	0.6

表 57 各アレルギー疾患罹患状況（認可保育所）

	全体児童数	A. ぜん息		B. アトピー性 皮膚炎		C. 食物アレルギー		D. アナフィラ キシー		E. アレルギー性 鼻炎		F. アレルギー性 結膜炎	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
問1D. 児童数（0歳男児）	4,300	114	2.7	211	4.9	398	9.3	23	0.5	15	0.3	10	0.2
問1D. 児童数（1歳男児）	8,402	294	3.5	420	5.0	1,002	11.9	87	1.0	59	0.7	21	0.2
問1D. 児童数（2歳男児）	10,235	498	4.9	542	5.3	848	8.3	91	0.9	96	0.9	57	0.6
問1D. 児童数（3歳男児）	11,373	604	5.3	556	4.9	674	5.9	73	0.6	173	1.5	86	0.8
問1D. 児童数（4歳男児）	11,574	735	6.4	620	5.4	543	4.7	71	0.6	222	1.9	162	1.4
問1D. 児童数（5歳男児）	11,657	834	7.2	552	4.7	440	3.8	58	0.5	225	1.9	208	1.8
問1D. 児童数（6歳男児）	236	41	17.4	23	9.7	12	5.1	2	0.8	11	4.7	9	3.8
問1D. 児童数（男児合計）	57,783	3,120	5.4	2,924	5.1	3,917	6.8	405	0.7	800	1.4	553	1.0
問1D. 児童数（0歳女児）	3,974	43	1.1	121	3.0	303	7.6	16	0.4	15	0.4	6	0.2
問1D. 児童数（1歳女児）	7,735	143	1.8	289	3.7	619	8.0	40	0.5	47	0.6	23	0.3
問1D. 児童数（2歳女児）	9,342	262	2.8	355	3.8	510	5.5	56	0.6	85	0.9	45	0.5
問1D. 児童数（3歳女児）	10,479	338	3.2	423	4.0	441	4.2	43	0.4	95	0.9	60	0.6
問1D. 児童数（4歳女児）	10,751	385	3.6	432	4.0	334	3.1	36	0.3	139	1.3	98	0.9
問1D. 児童数（5歳女児）	10,653	441	4.1	442	4.1	257	2.4	23	0.2	146	1.4	152	1.4
問1D. 児童数（6歳女児）	269	14	5.2	24	8.9	11	4.1	1	0.4	7	2.6	7	2.6
問1D. 児童数（女児合計）	53,203	1,626	3.1	2,086	3.9	2,475	4.7	215	0.4	537	1.0	391	0.7
児童数計	110,986	4,746	4.3	5,010	4.5	6,392	5.8	620	0.6	1,337	1.2	944	0.9

表 58 各アレルギー疾患罹患状況（認証保育所）

	全体児童数	A. ぜん息		B. アトピー性 皮膚炎		C. 食物アレルギー		D. アナフィラ キシー		E. アレルギー性 鼻炎		F. アレルギー性 結膜炎	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
問1D. 児童数（0歳男児）	855	19	2.2	24	2.8	81	9.5	4	0.5	6	0.7	1	0.1
問1D. 児童数（1歳男児）	1,239	27	2.2	38	3.1	165	13.3	11	0.9	11	0.9	6	0.5
問1D. 児童数（2歳男児）	1,066	35	3.3	35	3.3	72	6.8	5	0.5	8	0.8	4	0.4
問1D. 児童数（3歳男児）	453	12	2.6	17	3.8	25	5.5	4	0.9	8	1.8	5	1.1
問1D. 児童数（4歳男児）	287	10	3.5	6	2.1	12	4.2	3	1.0	5	1.7	6	2.1
問1D. 児童数（5歳男児）	237	11	4.6	11	4.6	7	3.0	2	0.8	7	3.0	3	1.3
問1D. 児童数（6歳男児）	7	2	28.6	0	0.0	2	28.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
問1D. 児童数（男児合計）	4,144	116	2.8	131	3.2	364	8.8	29	0.7	45	1.1	25	0.6
問1D. 児童数（0歳女児）	791	9	1.1	12	1.5	56	7.1	4	0.5	3	0.4	0	0.0
問1D. 児童数（1歳女児）	1,120	10	0.9	28	2.5	82	7.3	3	0.3	5	0.4	2	0.2
問1D. 児童数（2歳女児）	1,047	16	1.5	23	2.2	52	5.0	6	0.6	9	0.9	3	0.3
問1D. 児童数（3歳女児）	476	6	1.3	7	1.5	16	3.4	0	0.0	4	0.8	2	0.4
問1D. 児童数（4歳女児）	310	4	1.3	10	3.2	11	3.5	3	1.0	2	0.6	4	1.3
問1D. 児童数（5歳女児）	242	5	2.1	8	3.3	8	3.3	0	0.0	2	0.8	2	0.8
問1D. 児童数（6歳女児）	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
問1D. 児童数（女児合計）	3,990	50	1.3	88	2.2	225	5.6	16	0.4	25	0.6	13	0.3
児 童 数 計	8,134	166	2.0	219	2.7	589	7.2	45	0.6	70	0.9	38	0.5

表 59 各アレルギー疾患罹患状況（幼稚園）

	全体児童数	A. ぜん息		B. アトピー性 皮膚炎		C. 食物アレルギー		D. アナフィラ キシー		E. アレルギー性 鼻炎		F. アレルギー性 結膜炎	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
問1D. 児童数（0歳男児）	0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
問1D. 児童数（1歳男児）	0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
問1D. 児童数（2歳男児）	213	15	7.0	6	2.8	22	10.3	0	0.0	4	1.9	0	0.0
問1D. 児童数（3歳男児）	12,437	649	5.2	469	3.8	730	5.9	46	0.4	211	1.7	42	0.3
問1D. 児童数（4歳男児）	16,614	921	5.5	664	4.0	884	5.3	46	0.3	429	2.6	92	0.6
問1D. 児童数（5歳男児）	17,530	1,176	6.7	738	4.2	880	5.0	66	0.4	416	2.4	88	0.5
問1D. 児童数（6歳男児）	1,690	97	5.7	82	4.9	76	4.5	5	0.3	36	2.1	10	0.6
問1D. 児童数（男児合計）	48,484	2,858	5.9	1,959	4.0	2,592	5.3	163	0.3	1,096	2.3	232	0.5
問1D. 児童数（0歳女児）	0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
問1D. 児童数（1歳女児）	0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
問1D. 児童数（2歳女児）	200	8	4.0	5	2.5	16	8.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
問1D. 児童数（3歳女児）	12,082	372	3.1	347	2.9	540	4.5	24	0.2	132	1.1	32	0.3
問1D. 児童数（4歳女児）	16,564	572	3.5	536	3.2	639	3.9	35	0.2	293	1.8	75	0.5
問1D. 児童数（5歳女児）	17,060	717	4.2	615	3.6	600	3.5	28	0.2	260	1.5	69	0.4
問1D. 児童数（6歳女児）	1,488	45	3.0	56	3.8	50	3.4	5	0.3	23	1.5	3	0.2
問1D. 児童数（女児合計）	47,394	1,714	3.6	1,559	3.3	1,845	3.9	92	0.2	708	1.5	179	0.4
児 童 数 計	95,878	4,572	4.8	3,518	3.7	4,437	4.6	255	0.3	1,804	1.9	411	0.4